

I. 調査地の概況

Übersicht über die naturräumliche Ausstattung

1. 位置および地形・地質 Lage und Geomorphologie

調査対象地域は栃木県北東部、黒磯市、那須郡塩原町および藤原町に跨る地域である。本報告書ではこの地域を便宜的に塩原地方と呼ぶことにする。塩原地方は塩原温泉や那須温泉郷など温泉の多い地域として知られている。塩那道路は中塩原（560m）から鹿又岳（1817m）を経て板室（590m）に至る。標高差約1,250mの山岳地域を貫いている。那珂川をはじめ木ノ俣川、箒川、蛇尾川など那珂川の源流域であり、山岳部ではV字谷を形成している。箒川は塩原盆地を刻み込

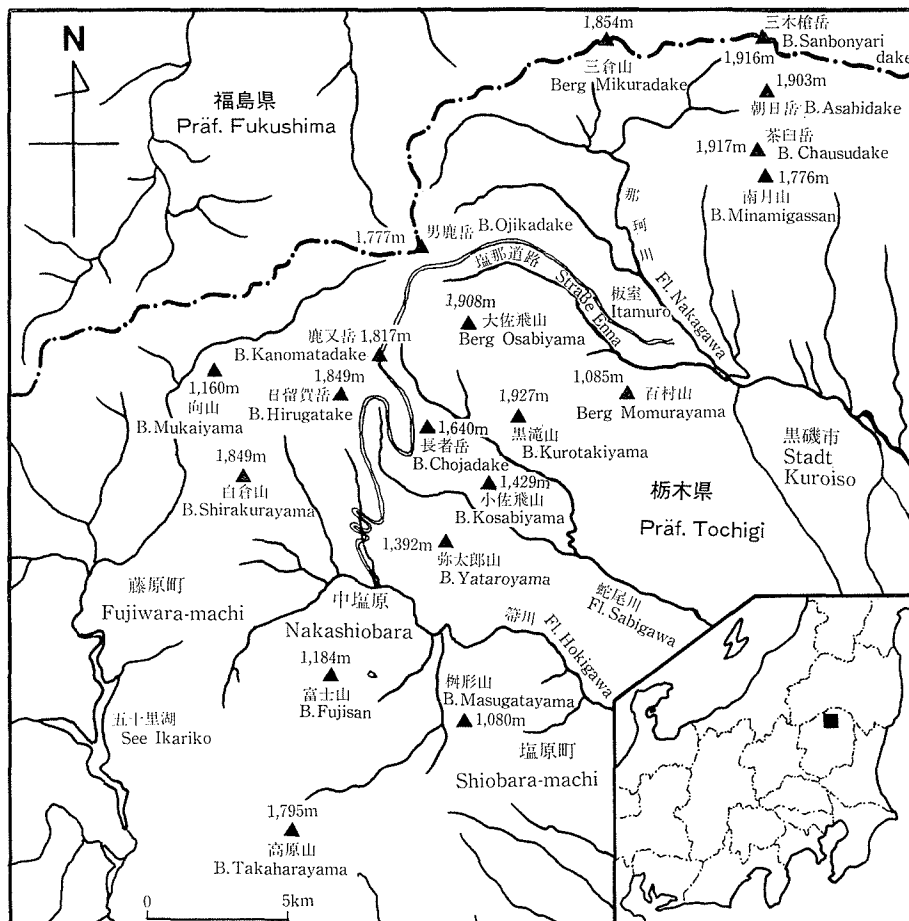


Fig. 1 調査地域およびその周辺図
Das Untersuchungsgebiet und seine Umgebung

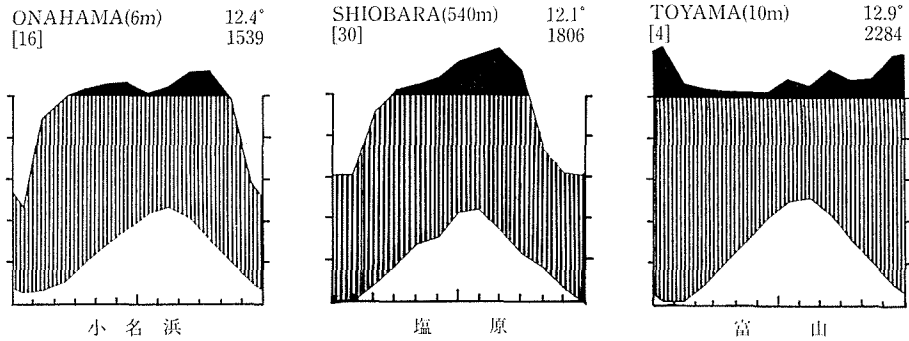


Fig. 2 塩原と同緯度地域の気候との比較

Vergleich der Klimagramme von Shiobara und von den auf gleicher geographischer Breite liegenden Orten von Onahama und Toyama.

み潜竜峽などの峽谷がみられる。

男鹿岳, 大佐飛又岳, 日留賀岳一帯は第三紀の安山岩, 流紋岩で占められている。長者岳から箒川に至る南面は, 主として第三紀の流紋岩類からなっている。塩原温泉付近は第三紀以後の化石の産地として知られ, 中塩原の木ノ葉石は有名である。

山岳部のブナ林地帯は主として褐色森林土となっており, 高海拔地のシラビソ林やハイマツ林下ではポドゾル性土壌もみられる。

2. 気 候 Klima

塩原地方は表日本型気候と裏日本型気候との境界領域にあっている。この地方とはほぼ同緯度の小名浜(表日本型気候)と富山(裏日本型気候)と調査地域下部の気候を比較すると Fig. 2 のようになる。これによると下部は表日本型気候に属している。しかし山岳部では冬季に1m以上の積雪がみられ, 海拔が高くなるにつれて裏日本型気候に移行する。1月の平均気温は塩原では -0.4°C であるが, 鹿又岳付近の海拔1,800mの温度を気温通減率 $0.55^{\circ}\text{C}/100\text{m}$ で推算すると -7.3°C となる。同様にして, 8月および年平均気温は塩原で 22.6°C , 10.8°C , 1,800m地点で 15.7°C , 3.9°C となる(以上数値は「とちぎの自然」6, 1979, 栃木県林務観光部による)。調査地域では暖地性の常緑広葉樹はみられず, 塩原町関谷(420m)以南にシラカンが単木的に生育, または生垣として植えられている。

降水量は塩原では冬季に月300mm前後で, 夏季には月200mmを越え, 年降水量は1,800mmに達している。山岳部では観測資料がないため不明であるが, 冬の積雪を考慮するとかなりの降水量があると推測される。

風は冬季には北～北東の卓越風が多く, 夏季には南向きとなる。山岳部の稜線にはハイマツ林やミヤマナラ林, チシマザサ草原などの風衝植生がみられることから, かなり強い風が卓越すると考えられる。

3. 植 生 概 観 Übersicht der Vegetation

塩那道路は基点の中塩原（海拔約 560m）から鹿又岳（海拔約 1,800m）付近に至る，約 1,240 m の標高差を貫いている。この範囲は植生学的には，ブナクラス域；夏緑広葉樹林帯から，コケモモトウヒクラス域；亜高山針葉樹林帯までわたっている。塩那道路周辺には，これら各植生帯の植生が広く自然状態で残されている。ブナクラス域からコケモモトウヒクラス域に至る自然林が連続的に残されているところは関東地方でも数少ない。

ブナクラス域は海拔約 1,500m を上限としてコケモモトウヒクラス域に移行する。中塩原や板室付近の海拔 600～800m の那珂川，箒川沿いには，急斜面や尾根状地にモミ，コナラ，アカシデ，イヌシデ，イヌブナ，クリなどの大径木が混生しているモミーコナラ林が生育している。斜面下部にはケヤキ林がみられる。ブナ林は海拔 700～800m から出現し，林床にチシマザサを伴っている。海拔が高くなるにつれてマルバマンサク，オオバクロモジなどが出現し，裏日本的性格が強くなる。塩原地方は裏日本気候と表日本気候の接点に位置しており，ブナ林にもその影響が反映されている。海拔 1,200m 以上の尾根部にはアスナロ林が生育している。渓谷林ではジュウモンジシダーサワグルミ群集が生育している。塩那道路沿線では，道路建設に伴った谷への土砂の移動，斜面崩壊により沢が埋まり，サワグルミ林の生育地は限定されている。



Fig. 3 塩原側から調査地域を望む。白く見えるのが塩那道路（海拔 1,100m）。
Blick auf das Untersuchtesgebiet von den Shiobara-Seite aus. Der weiße Streifen an dem Berghang ist die Ennabergstraße (1,100 m ü. NN).

コケモモートウヒクラス域は、シラビソ、オオシラビソ、コメツガ、アスナロ、クロベなどの常緑針葉樹が生育し、シラビソ—オオシラビソ林、コメツガ林、クロベ林などがみられる。これらの代償植生としてダケカンバ林が成立している。ダケカンバ林は雪崩による持続群落としても成立している。日留賀岳の稜線付近の風衝地にはハイマツ低木林やチシマザサ、クマイザサ草原、ミヤマナラ低木林など風衝植生が生育している。

塩那道路沿線は、道路建設による斜面の切り崩し作業の結果、道路法面や崩壊地などの新しいそれまでとは異った立地環境が形成されている。そこにはヤシャブシ、ヤマハンノキ、ヤハズハンノキ、クマイチゴ、ミヤマニガイチゴなど先駆的低木類や、フキ、ヤマハハコ、ヒメノガリヤス、テンニンソウなどが群落を形成している。

クリ、コナラなどの雑木林やスギ植林は、中塩原や板至付近など文化景観域を中心に生育している。